

世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

RI会長 K.R.ラビンドラン

まるがめ

週報

 会員数 59名 出席者45名・欠席者12名・免除会員4名
欠席者 秋山恒・有家・麻田・後藤・池田・和泉享・増田
松山・森・中川・中西・中野昌-会員

前々回出席率 85.45%(2/4)

 2016.2.25
Vol.53
No.32
(2601)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 大西 和彦
幹事 齋賀 護
会報委員長 曾川 泰廣

お知らせ

- ∴ 2月のプログラム
4 (No.1)-IM報告
11 (No.2)-休 会
18 (No.3)-クラブフォーラム
25 (No.4)-クラブフォーラム
- ∴ 他RC例会変更
丸亀東RC 2/16 ホール大会
- ∴ ニコニコBOX;
アイスクリームありがとうございます
直井君
「シェルドンの森」の卓話を終えて
横田君
- <ニコニコ会計累積/¥346,000>
- ∴ がんばるBOX;
早退します
塩田君
- <がんばる会計累積/¥266,440>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長挨拶

会長が遅れるということで一言。
私事ですが、今年は速読に挑戦してみようと思っています。古くから天才・偉人の多くは速読の実践者です。個人差もありますが、速読脳を開発すると、約5ヶ月のトレーニングで通常活字を読むスピードを千倍くらいまで高めることが出来るようです。記憶力・理解力を深め、眠っている右脳を活性化する効果もあるようです。今まで読めなかったジャンルの本にも範囲を広げ、時間をぜいたくに有意義に楽しみたいと思っています。
次年度の社会奉仕環境保全のあり方について、皆様の意見を求めたいと思いますので、よろしく願いいたします。今まで丸亀ロータリークラブは、二十数年間の長きに亘り、お城まつり事業に参画し、地球環境保全の啓発活動のため取り組んでまいりました。
今一度環境保全の原点に立ち返り、何か形に見えるものとしての活動にシフトしていくのも良いのではないかと思います。後日アンケート用紙をお渡しますのでよろしく願いいたします。

■会長報告

- ①丸亀商工会議所からの通知
- ②青少年のキャンプが小豆島で行われます

■幹事報告

- ①地区大会登録のお願い(新入会員登壇予定ですので出席してください)

■委員会報告

- ①2/27会報雑誌委員会(オークラホテル)にてテレビ会談を試行しました

■例会事業;クラブフォーラム;職業奉仕委員会横田委員長

“シェルドンの森” ロータリーの真実を求めて 田中 毅 著

第二標語のHe profits most who serves best は
アーサー・フレデリック・シェルドンが唱えた言葉で
ロータリーはそれを拝借して使っている。

セールスマンの仕事を経営学という学問で考え、
サービス(奉仕)をする、即ち相手がして欲しいと
望むことをすることにより永続的に商売を続けること
ができる、継続的な顧客を確保することができる と説く。

シェルドンは教育とは知識を教えることでなく、その人の能力を引出し、それを
成長させることにあるという考えを持った教育者でもある。

(裏へ続く)



2016.2.25

Vol.53

No32

(2601)

シェルドンの説く奉仕理念

- ① 健全な事業経営とは、奉仕理念に基づいて、継続的な利益をもたらす常連客の確保にある。
- ② サービス(奉仕)という原因には、必ず報酬という結果が与えられる。
- ③ サービスが先 報酬は後。この順番を間違えないこと。
事業に失敗するのはこの順番を間違えて、先に報酬を得ようとするからです。

奉仕とは人の役に立つこと。サービスを受けた立場から得られるのは「満足感」。
奉仕とは満足感を与える事

ロータリーとは職業奉仕である。この職業奉仕が分からないとロータリーは分からない。

クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の受益者はサービスを受けた人であるが、職業奉仕(個人奉仕)の受益者はロータリアン自身である。

ロータリーの職業奉仕とはシェルドンの説く“*He profits most who serves best*”。

サービス(奉仕)することで相手に満足感を与える。サービスすることにより常連客を確保することができる。ロータリークラブは異業種の人々の集まりで職業によりサービスの仕方が違って来るが、根底に流れる思いは“相手の為になることをする！”である。例会において様々なことを学び、それを自分なりに翻訳し、自分の職業に当てはめて考えることでサービス(奉仕)を充実させることができ、永続的に商売を続けていく道が見えてくる。

自分の仕事の繁栄を考えるなら、例会を学びの場と考え、例会に出席をすることである。

■次週例会プログラム;客話;米山奨学生辛歓様